

## Way

日本一記念号外「ウェイ」

体育学科 3年

## 増野元太

Genta Masuno

体育学科3年。函館大有斗高校出身。110mハードル選手。  
2011年 日本ジュニア2位・2013年 日本インカレ2位・2014年 関東インカレ優勝第17回アジア競技大会(韓国・仁川)日本代表  
「世界の決勝で戦う選手になります」Person  
号外  
2014  
Summer目指せ、オリンピック  
日本一から世界の舞台へ!インターハイ優勝者だから  
優勝できるわけではない**高**校時代にインターハイで優勝した増野元太君の高校時代のベスト記録は、14"12だった。日本選手権優勝タイムは、13"58。その差である0.54秒は、ゴール前で約4mの差を意味する。高校チャンピオンの彼は、今の彼に大学入学後2年間でどのようにこの大幅なタイム縮小を実現させたのか取材した。

インターハイに優勝した増野君に声をかける大学は多くあった。「先輩達も国際武道大学に行って記録を大きく伸ばしていたこともあったし、ハードル指導のエキスパートである櫻井コーチから声をかけて頂いて即、決意しました」と言う。

国体選手となり、北海道代表の日本選手権覇者(高平選手・福島選手)と接する中で、目標の設定の仕方、トレーニングの仕方に関して大いに刺激を受けた。櫻井コーチ・眞鍋監督からの的確な指導も形として現れた。

「3月ぐらいから様々に計測した細かいタイムが、今までの選手の中で群を抜いていました」と櫻井コーチ。眞鍋監督も「勝つ選手というのは、こうやって確実にステップアップしていきます。本番で緊張する選手は多いですが、日本選手権で自己新記録を出し、最後の最後で競り勝つというのは、明確な目標設定と本番に集中する力がずば抜けているからだ」と話す。

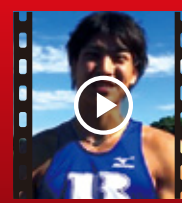
日本選手権の直前、日本に来ていたアメリカ合衆国の110mハードルチャンピオン、ライアン・ウィルソン選手が国際武道大学に練習に来た。その折、ウィルソン選手は増野君に色々な課題を提示してくれた。日本選手権を取った直後にウィルソン選手は「元太、優勝と自己新13"58おめでとう。元太と櫻井コーチは最高だ。行け！国際武道大学」というメッセージをTwitterで寄せてくれたという。

2020年、  
いや2016年を目指して**本**年度の国際武道大学の大学案内では、増野君は「東京オリンピックを目指す」と宣言しているが、「日本選手権を取ったことで、世界選手権(2015)に出て、リオ・オリンピック(2016)も見えてきたと思います」と眞鍋監督は話す。

増野君自身も「来年のユニバシアードと世界選手権に向けて、この結果をいい通過点にしたい」と語る。増野君の眼差しは、「世界の決勝」の一点を見据えている。

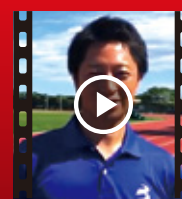
Special Interview

クリックで動画再生!



Movie 1

増野 元太君



Movie 2

陸上競技部ヘッドコーチ  
櫻井 健一

Movie 3

陸上競技部監督  
眞鍋 芳明  
准教授

Movie 4

陸上競技部部長  
前河 洋一  
教授

Movie 5

岩壁 達男  
前副学長